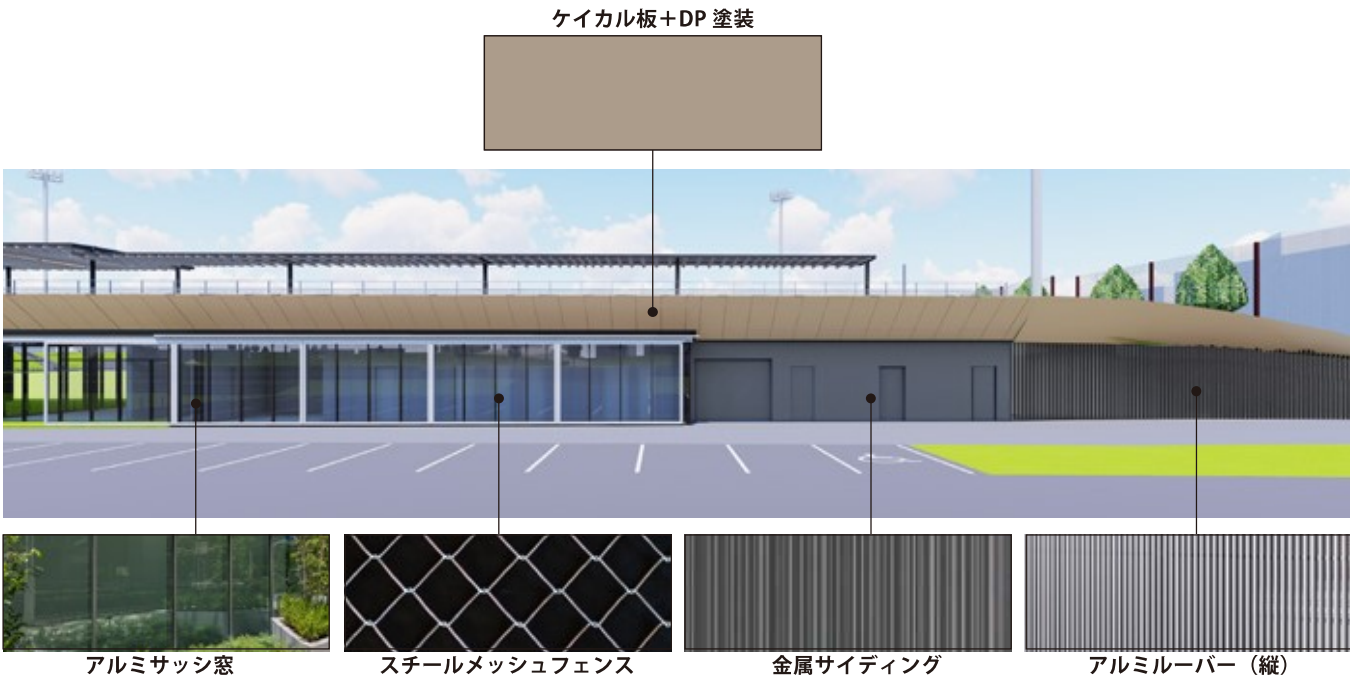


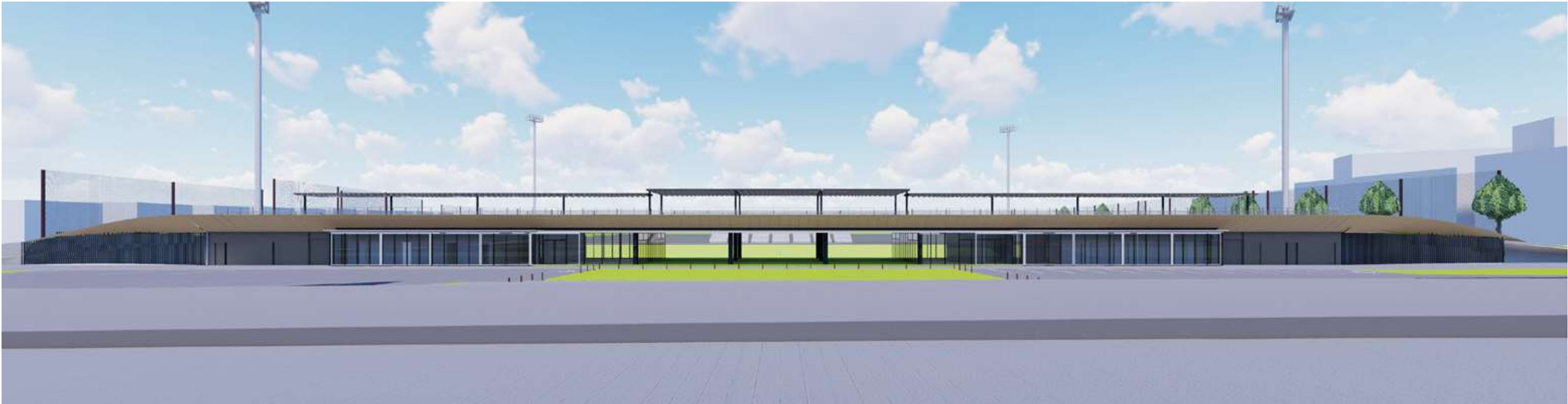
■デザインコンセプト

「にぎわいの丘と連続し、南花台の新たなシンボルとなるのびやかな大庇」

- ・管理棟の南北側の屋根面を地形と連続した設えとすることで、丘陵状のシルエットを創出し、
 景観に配慮した計画とする。
- ・管理棟東側立面を地面から連続する一面の大きな庇とし、公園と調和した象徴的なデザインとする。



- ・ピロティのセキュリティラインはスチールメッシュフェンスとし、防犯性と視線の抜けの両立させる。
 またピロティ開放時は廊下の前へスライドさせる。
- ・廊下の外壁面はアルミサッシ窓とし、廊下の高さ（H=3,000）までとすることで、大庇の連続性を可視化し強調する。



1. 大庇

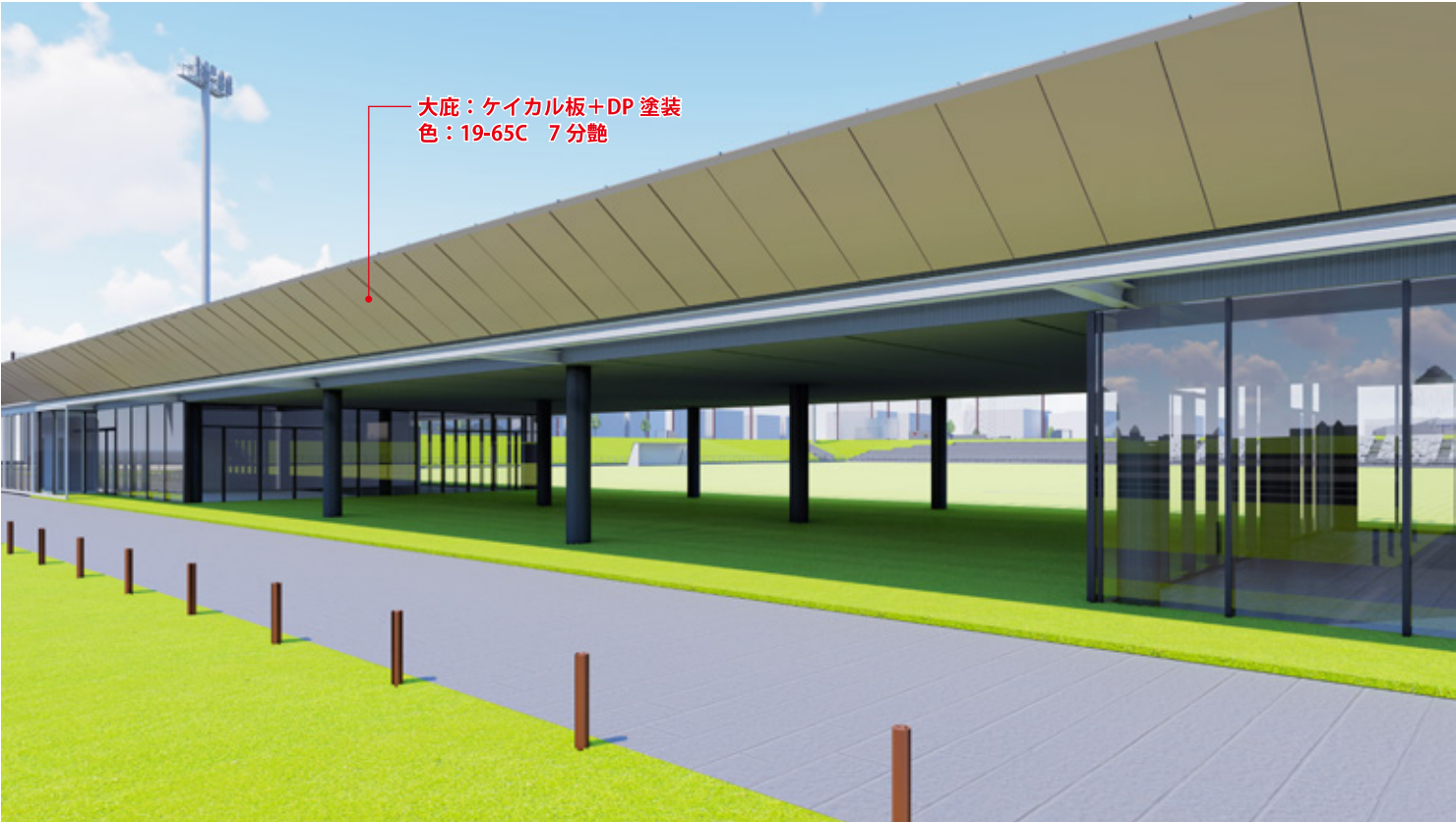
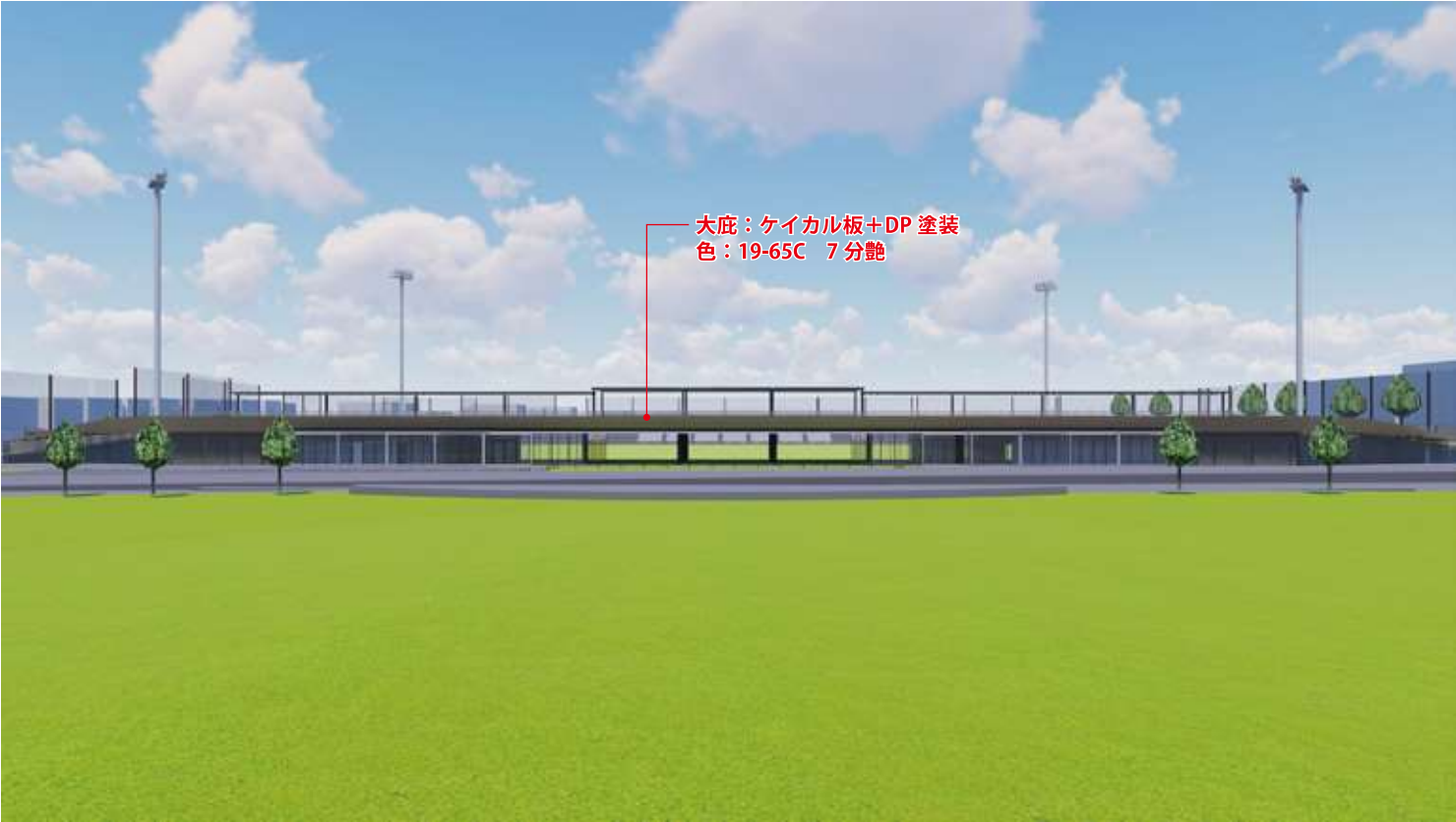
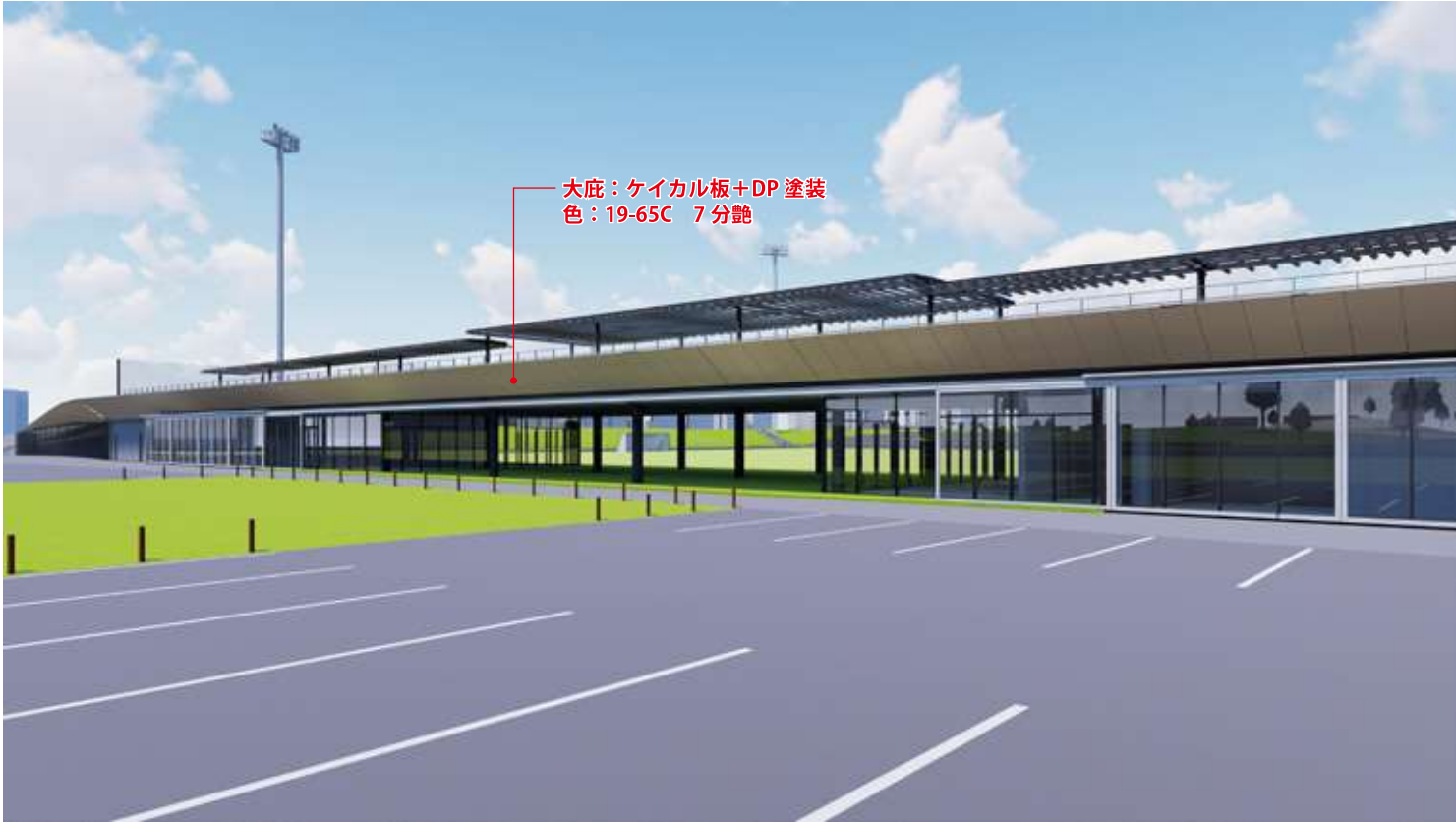
①グレー＋ベージュ

★設計者推奨案

ダイナミックな庇を象徴的に見せつつ、自然になじむ色彩。

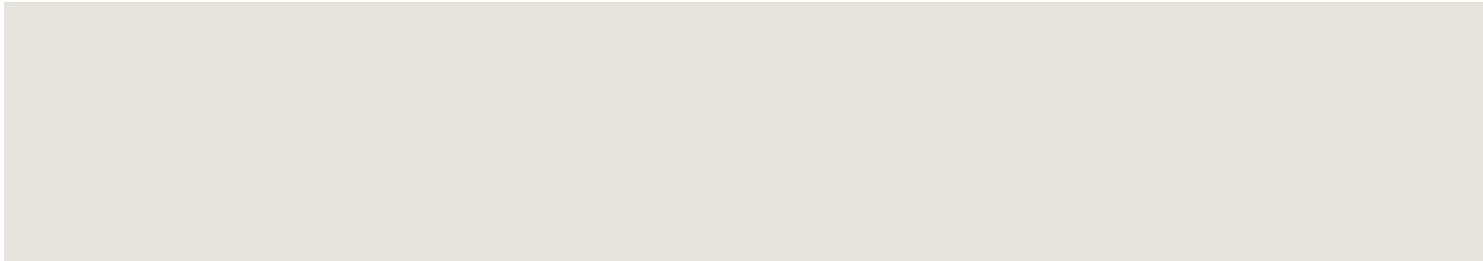


大庇：ケイカル板＋DP 塗装
色：19-65C 7分艶

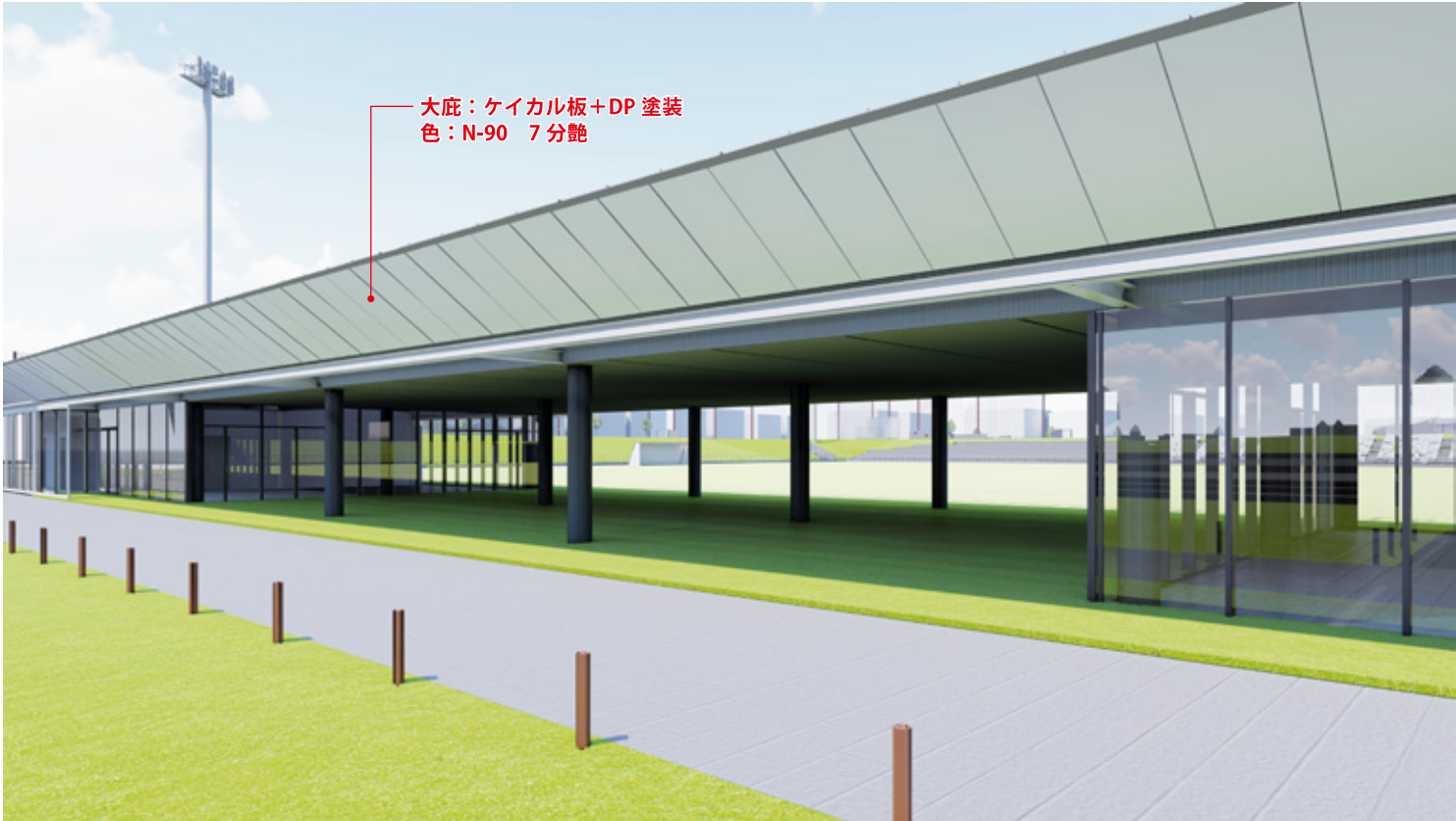
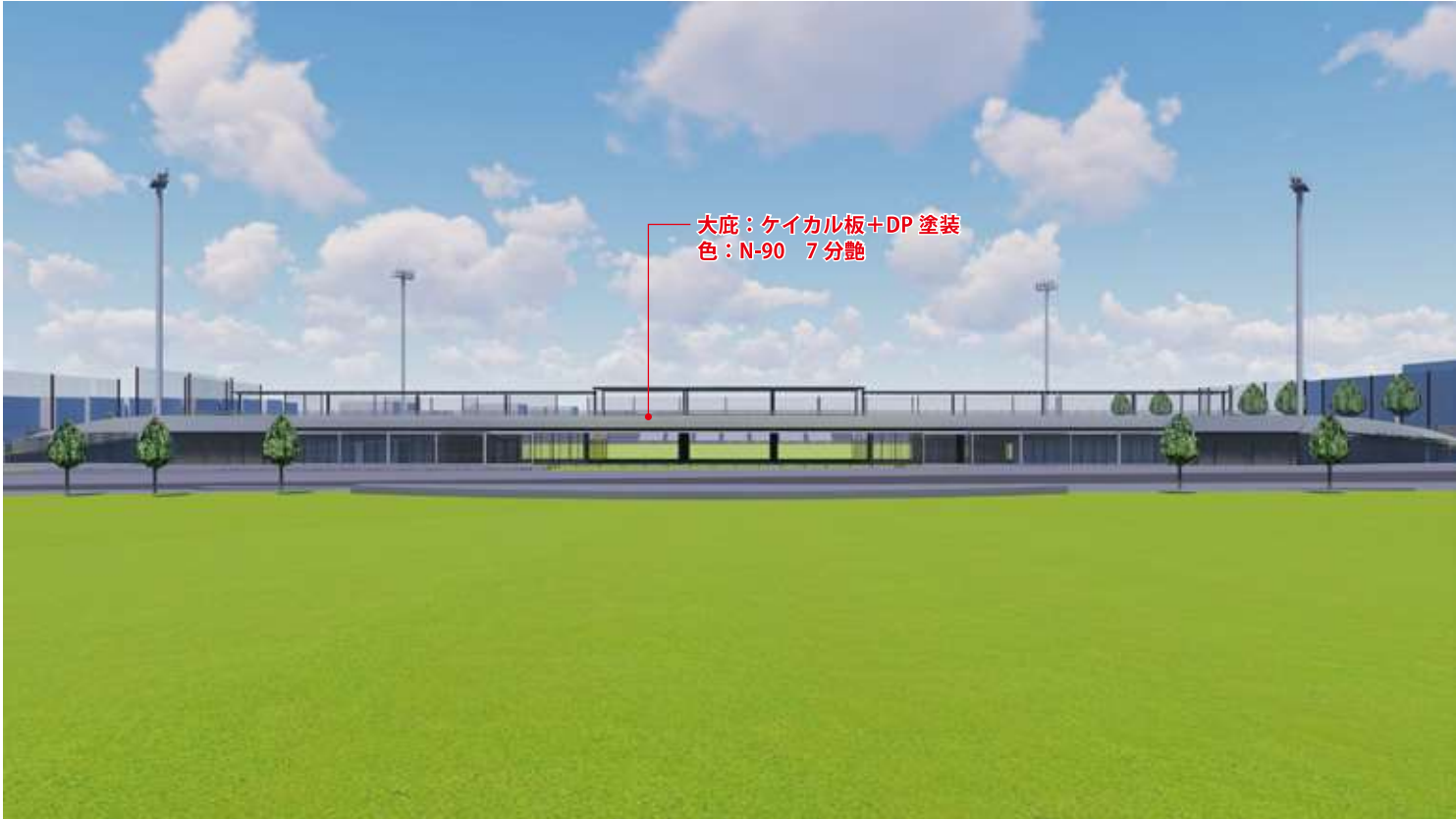
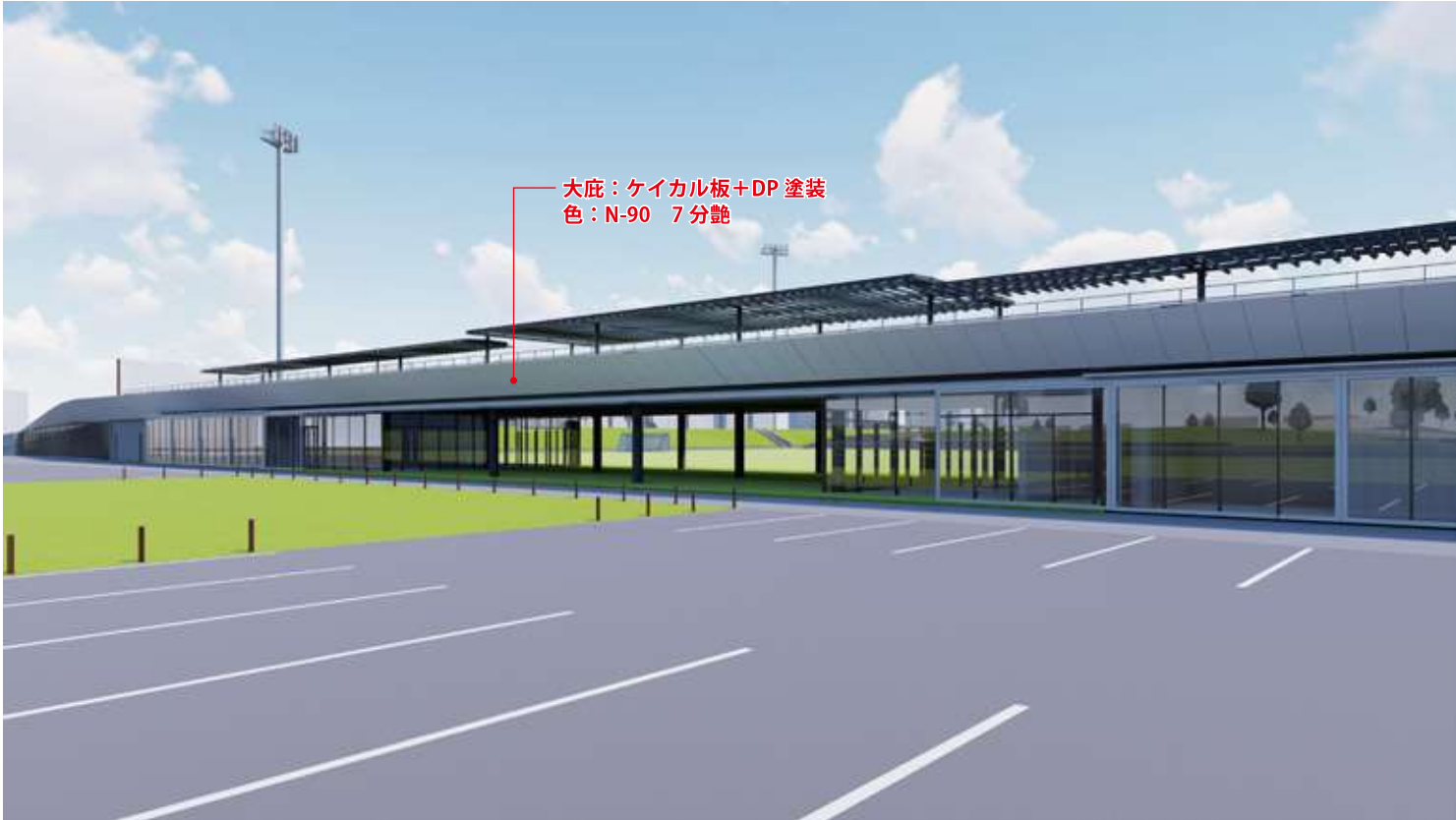


1. 大庇

②ホワイト



大庇：ケイカル板+DP 塗装
色：N-90 7分艶

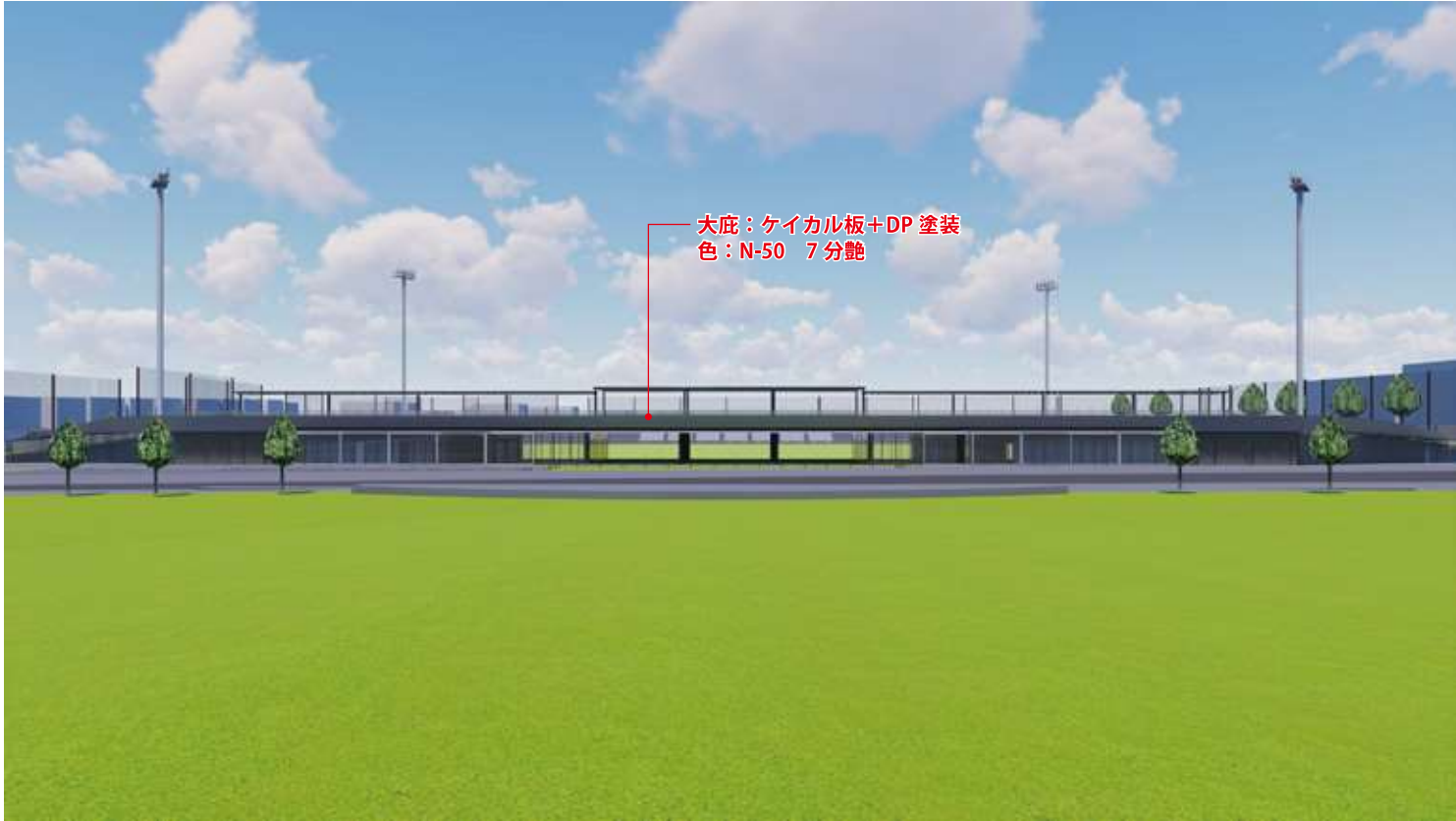
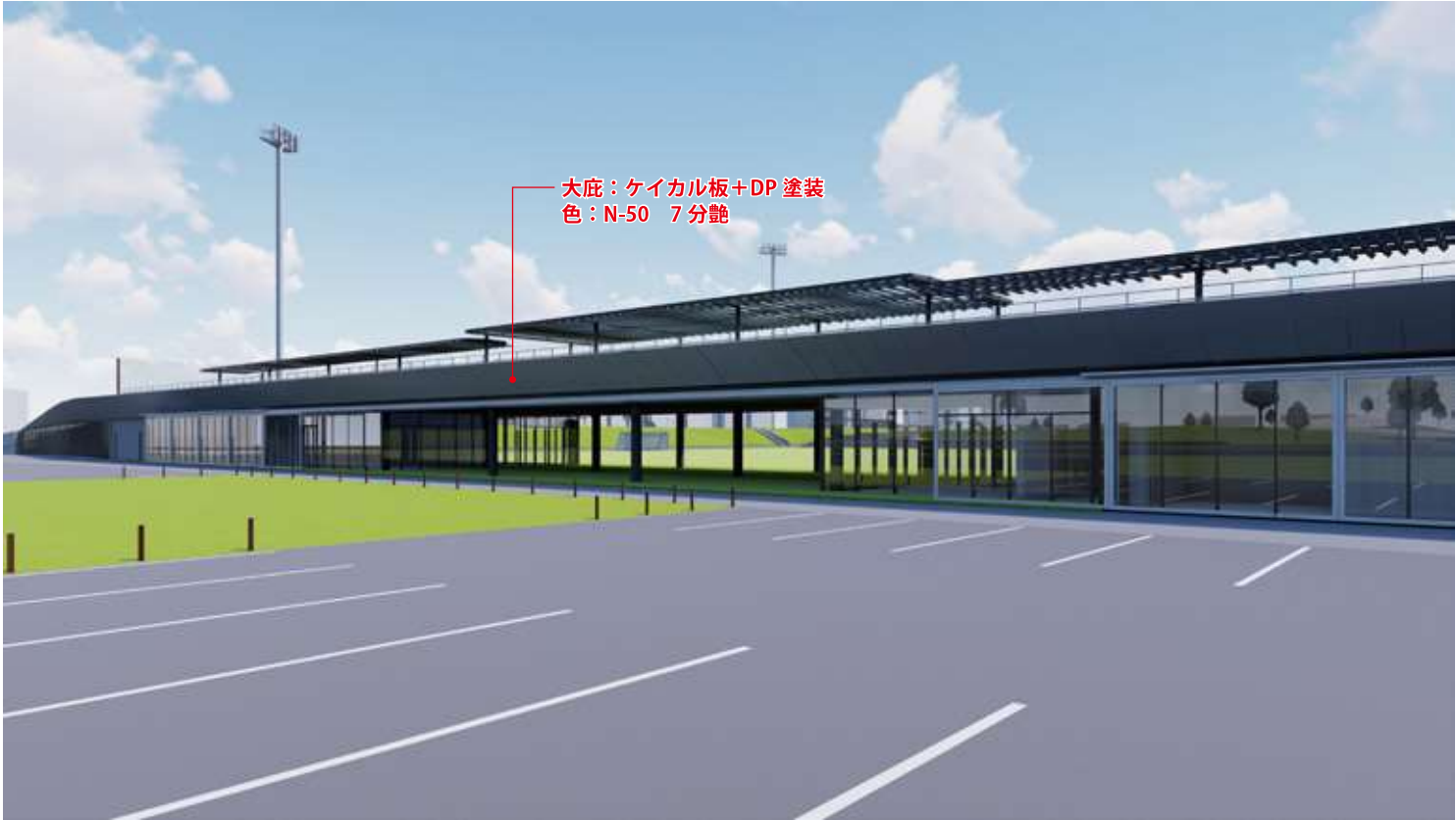


1. 大庇

③ブラック



大庇：ケイカル板+DP 塗装
色：N-50 7分艶

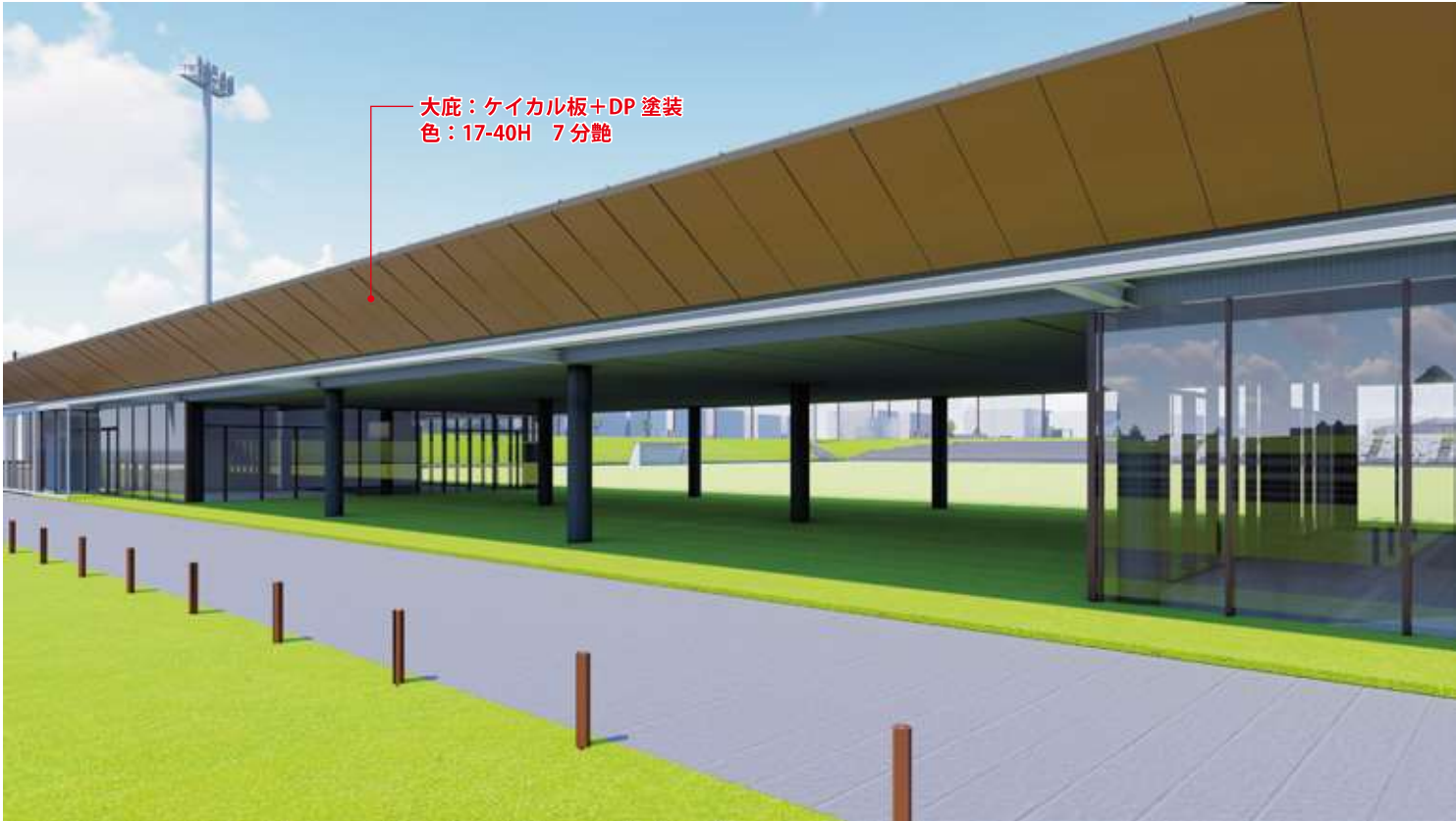
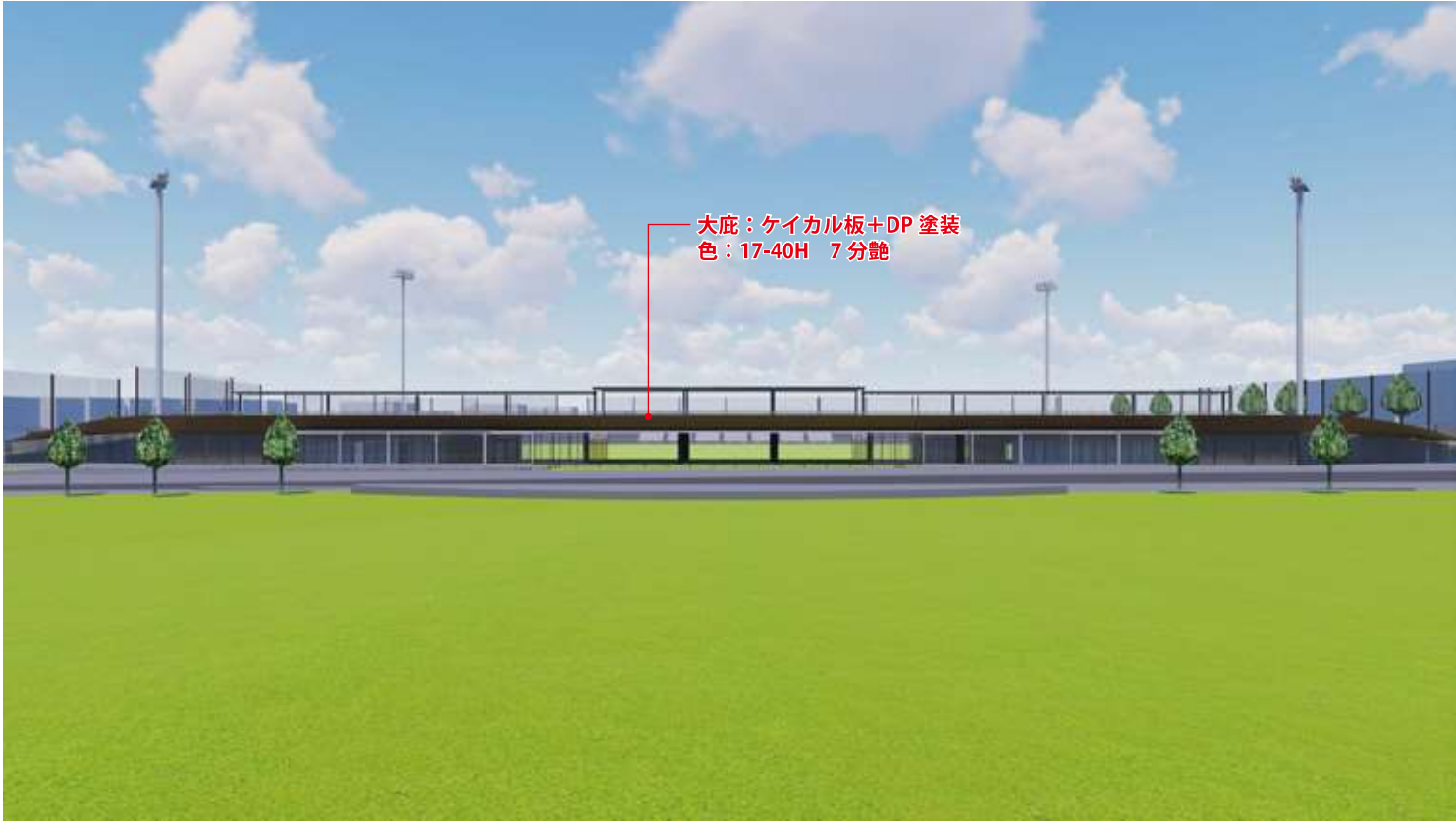
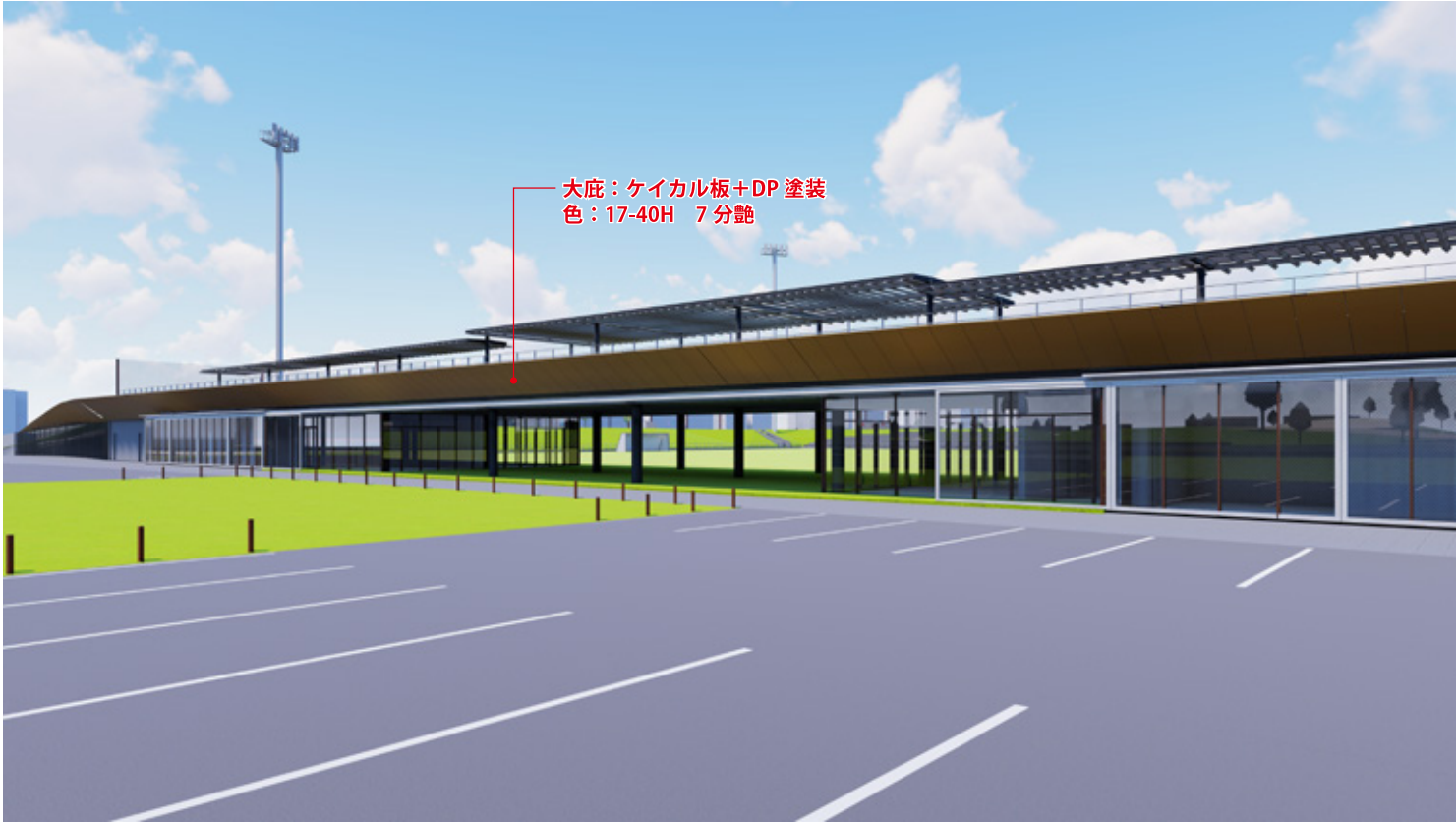


1. 大庇

④ ブラウン



大庇：ケイカル板+DP 塗装
色：17-40H 7分艶

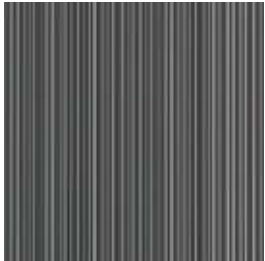


2. 外装全般

① グレー系

★設計者推奨案

周辺の緑が映える背景となりながら、若干ブラウン系の色とすることで自然になじむ色彩。



外壁：金属サイディング
色：グラングレー



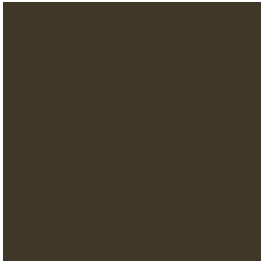
鋼製建具・柱：DP 塗装
色：22-30B 5 分艶



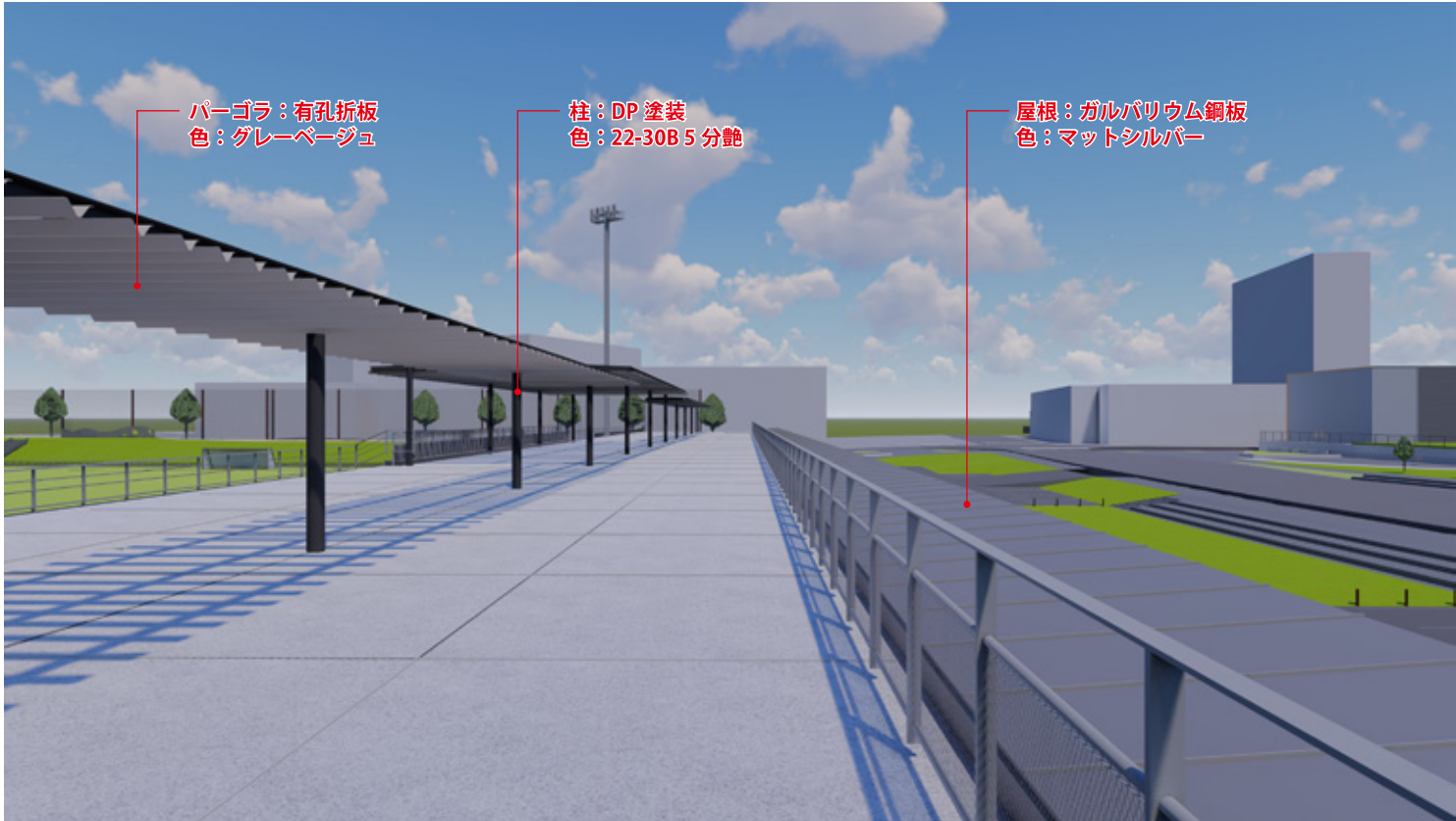
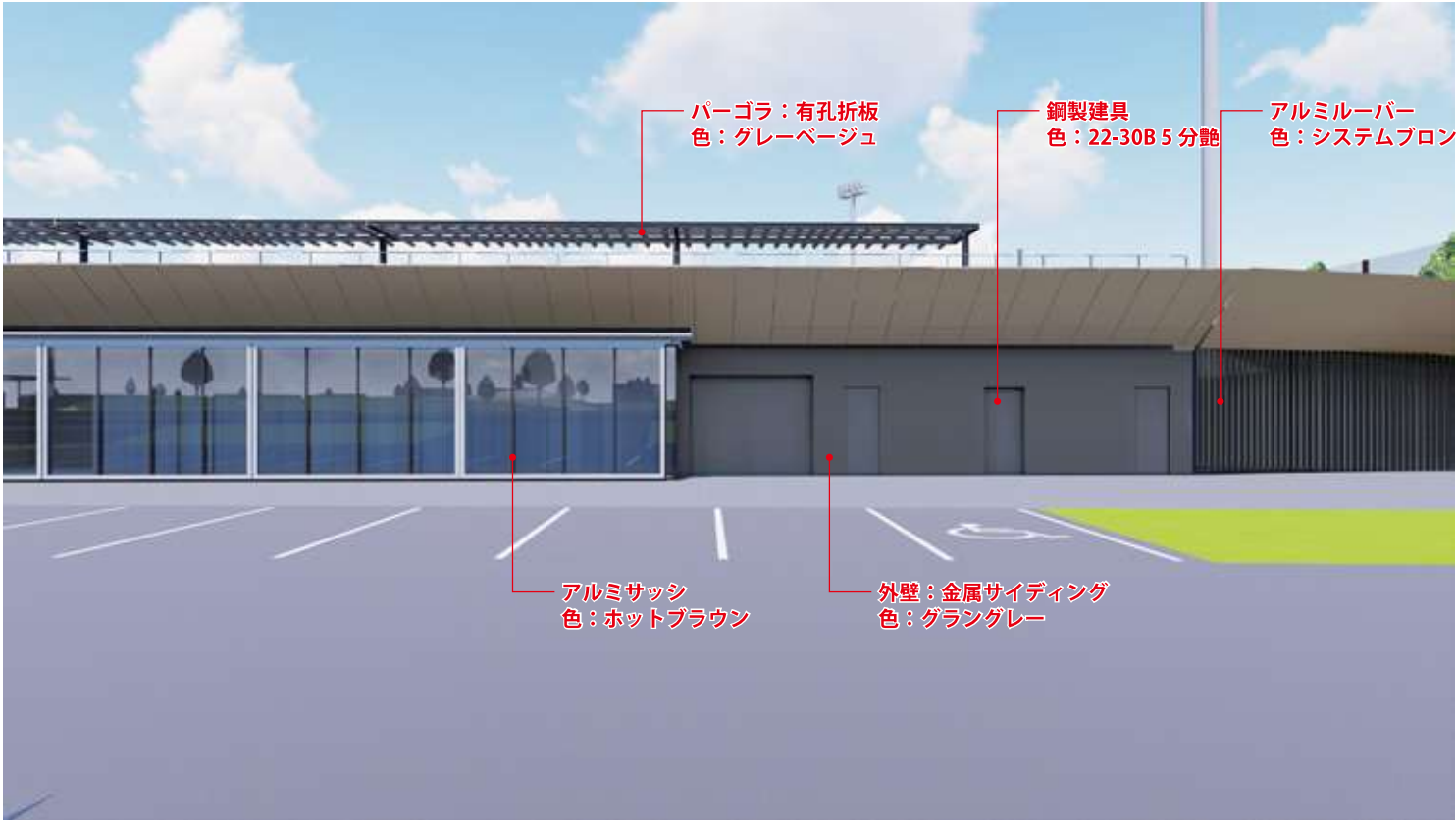
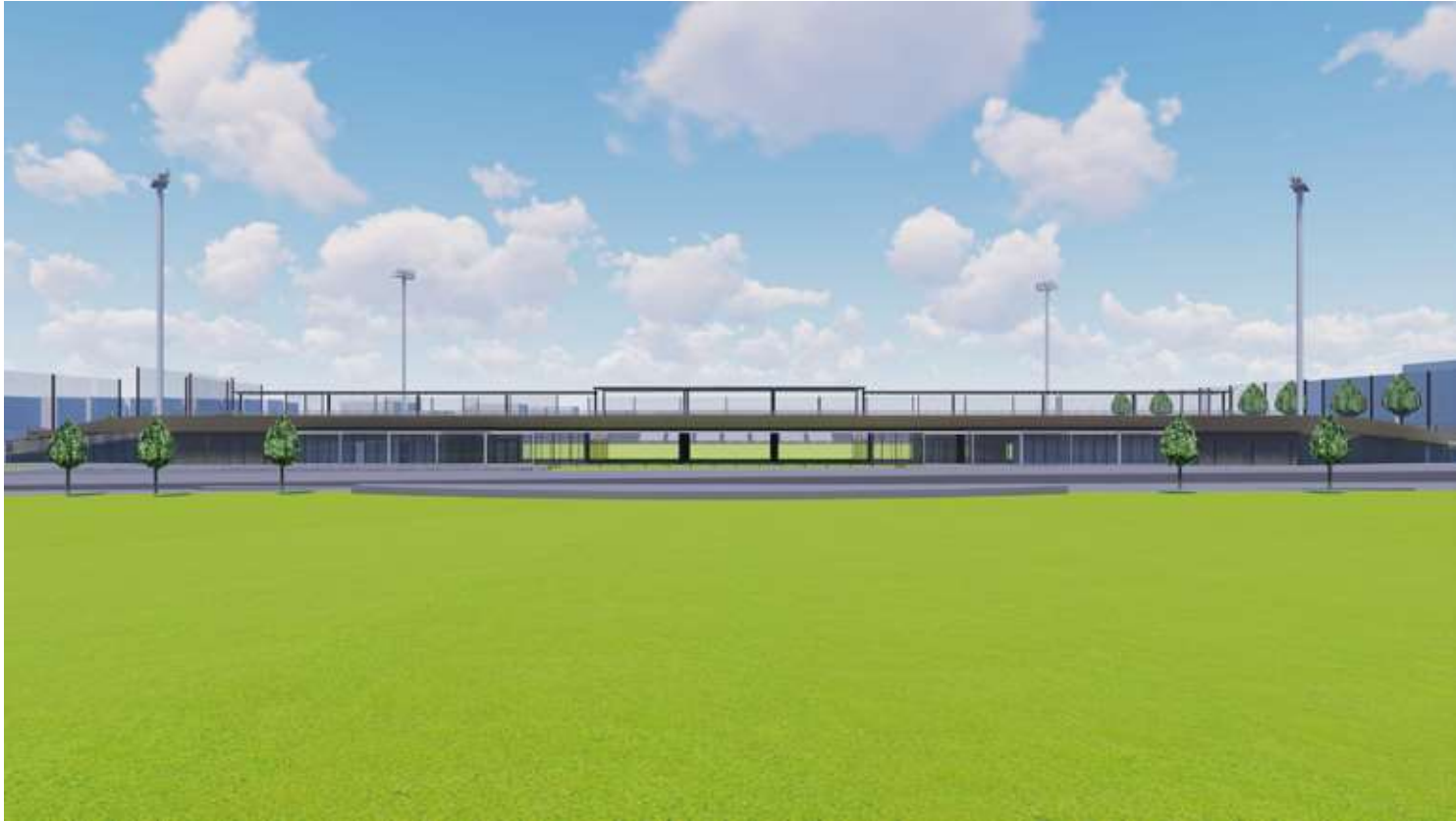
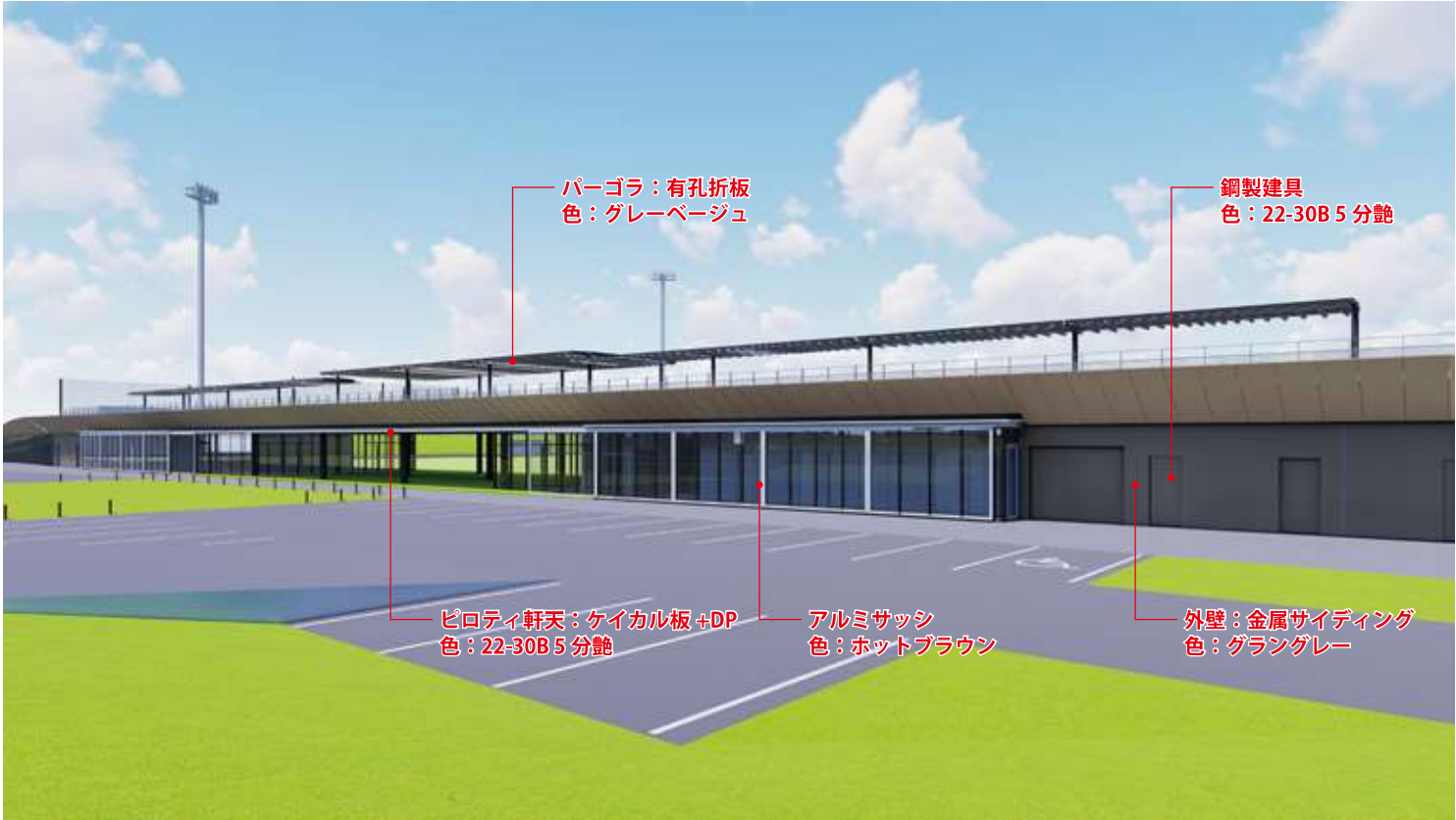
アルミサッシ
色：シルバー



パーゴラ：有孔折板
色：グレーベージュ

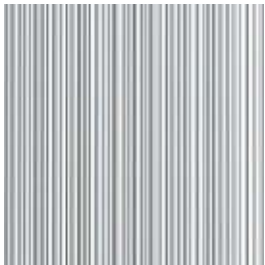


アルミルーバー
色：システムブロンズ



2. 外装全般

②シルバー系



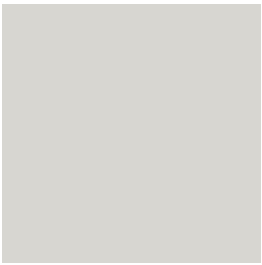
外壁：金属サイディング
色：メタリックシルバー



鋼製建具・柱：DP 塗装
色：N-67 5 分艶



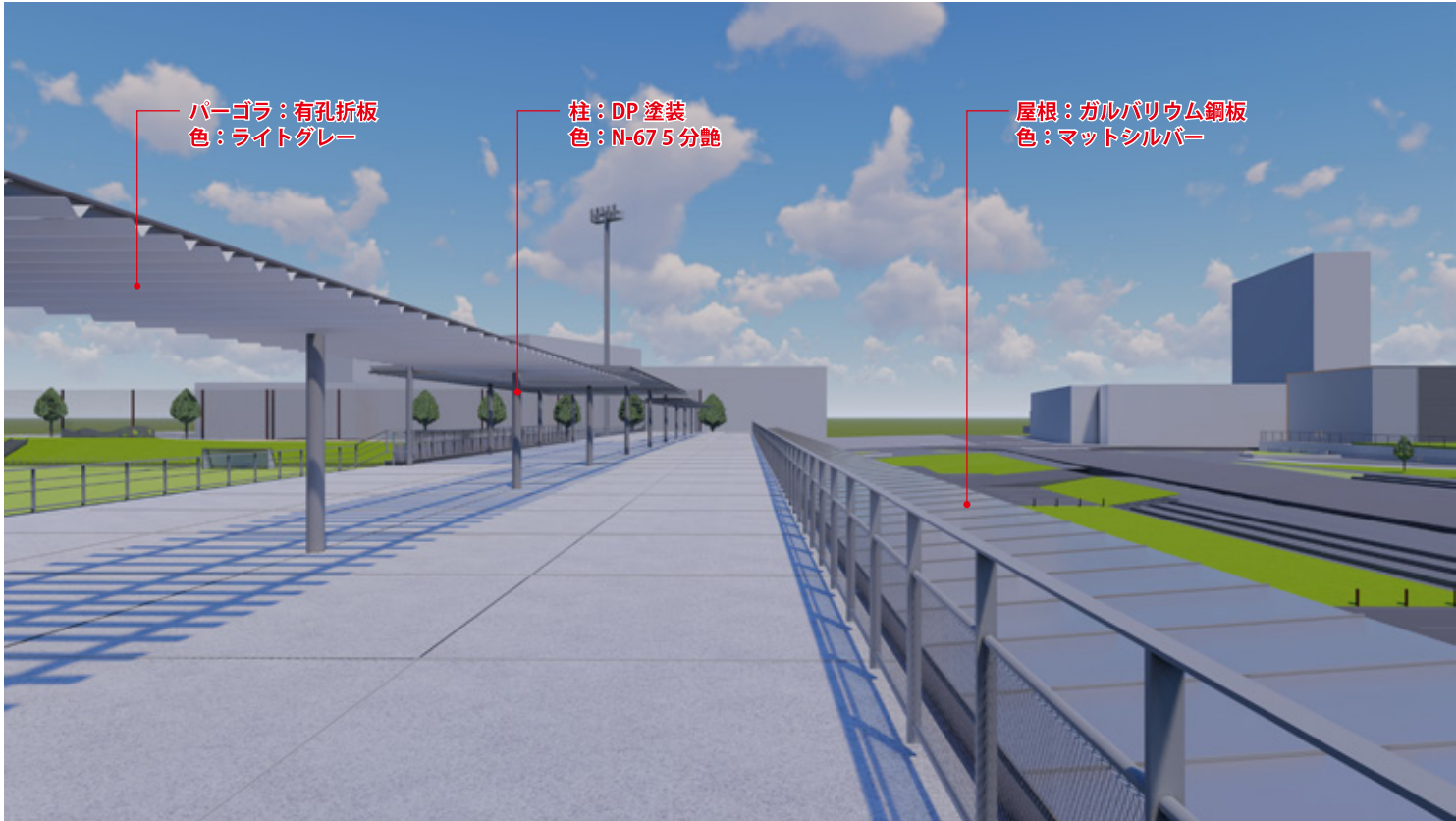
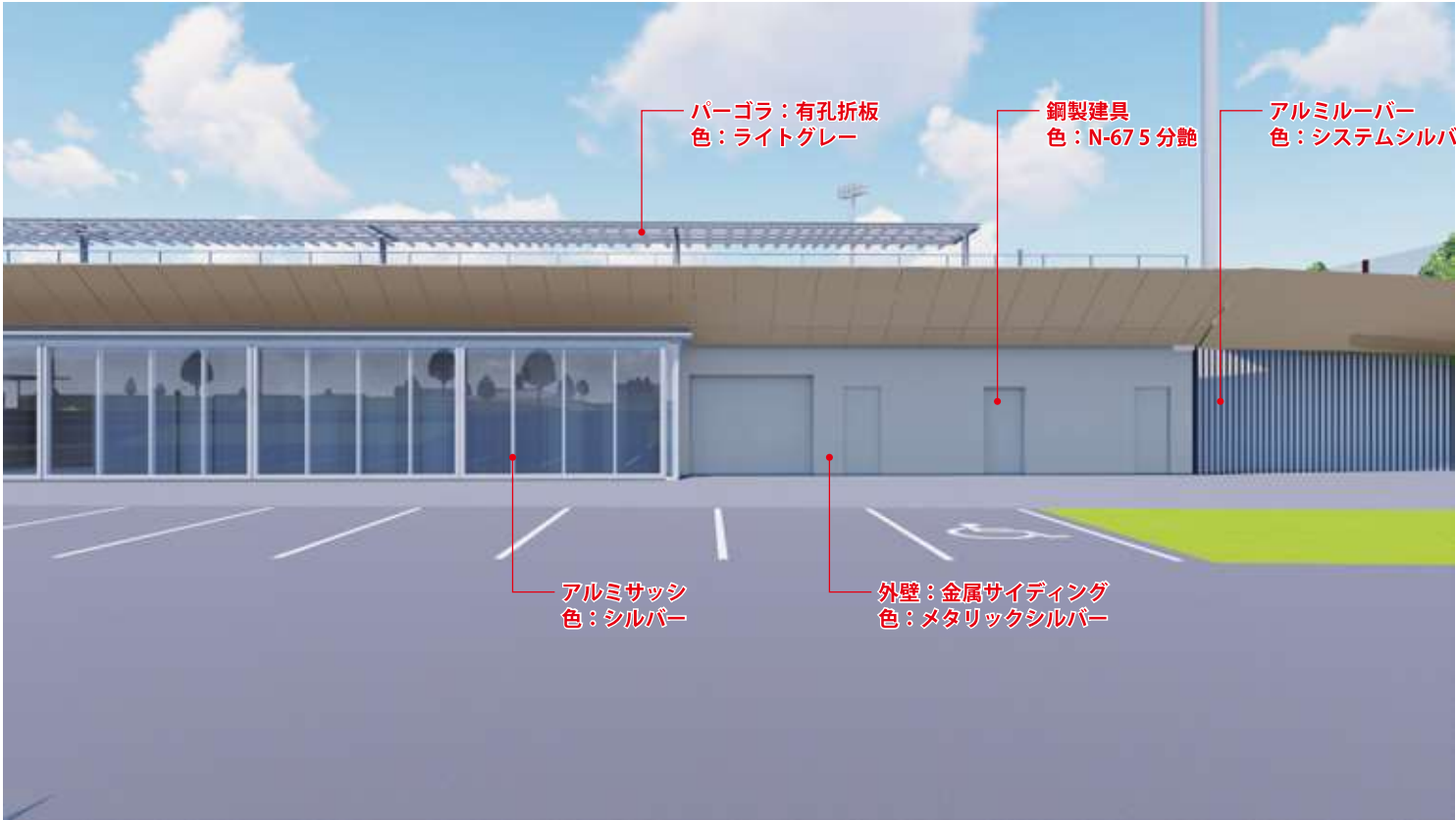
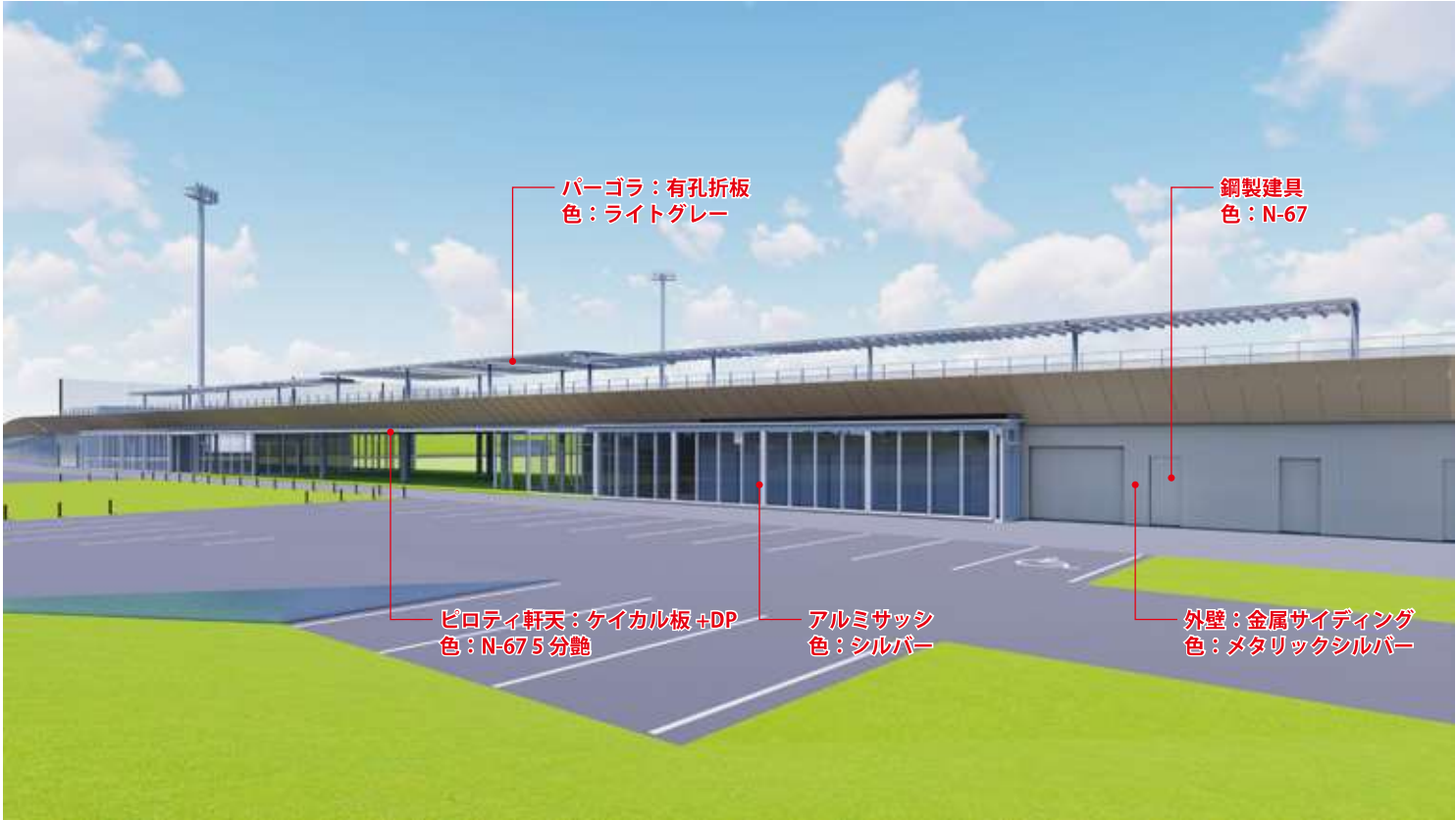
アルミサッシ
色：シルバー



パーゴラ：有孔折板
色：ライトグレー

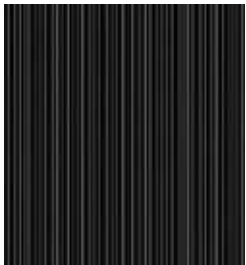


アルミルーバー
色：システムシルバー



2. 外装全般

③ブラック系



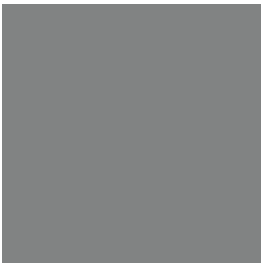
外壁：金属サイディング
色：コモンブラック



鋼製建具・柱：DP 塗装
色：N-30 5 分艶



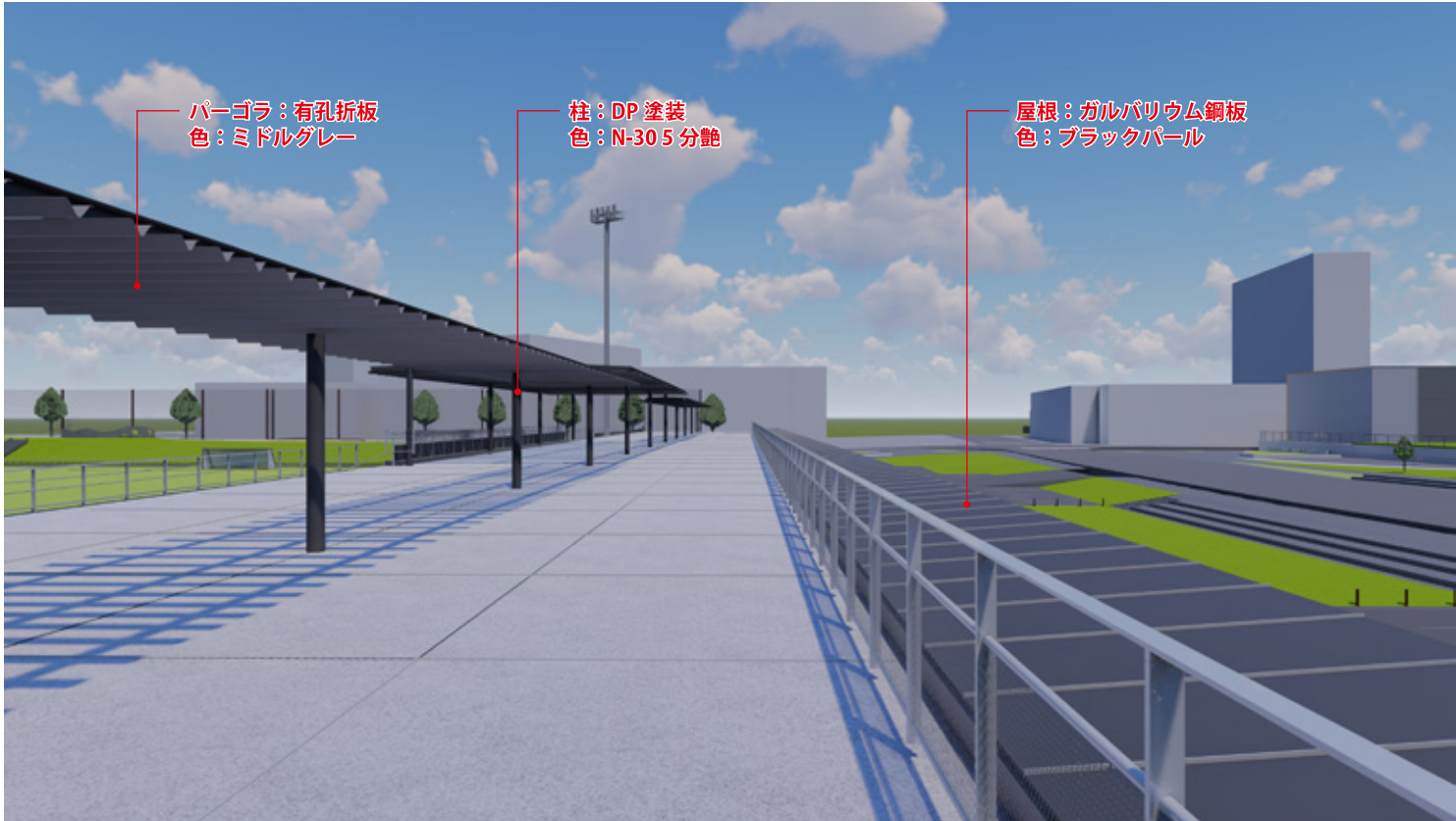
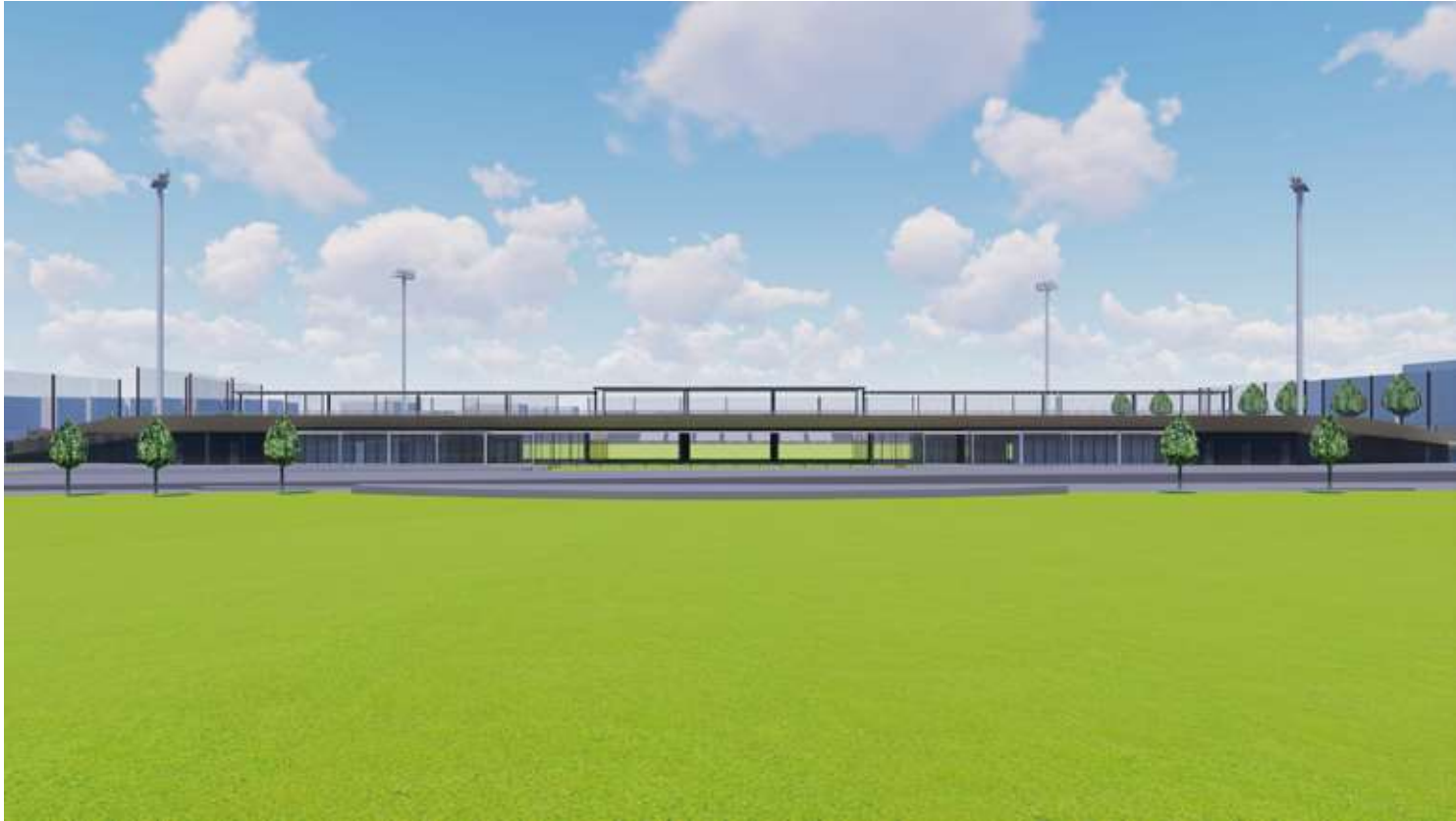
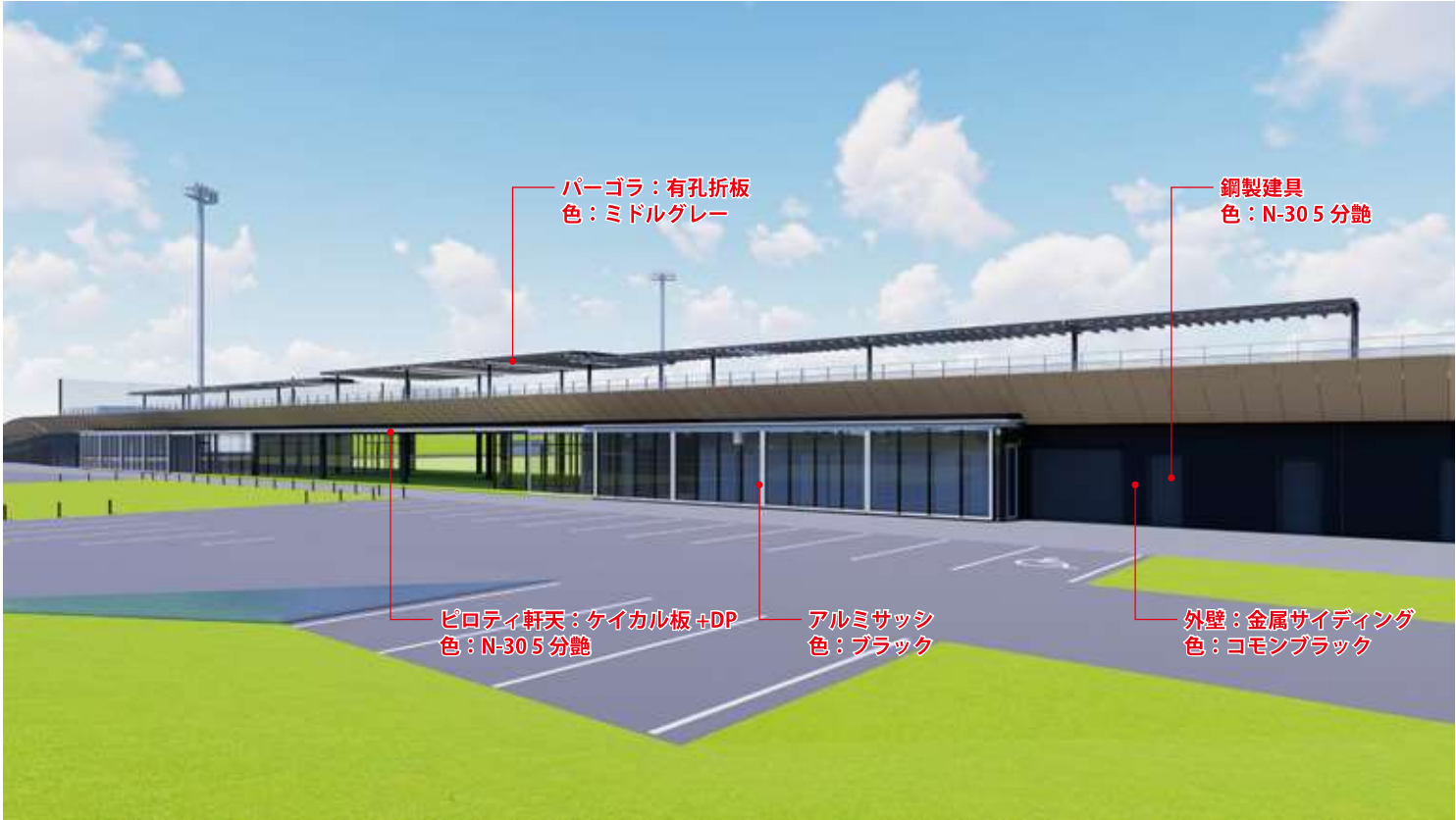
アルミサッシ
色：ブラック



パーゴラ：有孔折板
色：ミドルグレー



アルミルーバー
色：システムブラック



管理棟前 舗装色調検討

○舗装の色調方針

- ・素材はインターロッキング舗装（決定）
色調は同じで、異なる仕上げを複数混ぜることで、管理棟にあったグレード感を演出
- ・色調は管理棟と調和する **グレー系**（通常品にショットプラスチック品と研磨品を混ぜる）
⇒グレー系のなかでも濃淡の3種類の中から選定
- ・管理棟前には視覚障害者誘導ブロックが必要
⇒舗装材との輝度比を考慮して、合わせて検討

視覚障害者誘導用ブロックの色は、一般的なアスファルト舗装との対比効果が発揮でき、視覚障害者（弱視）の適切な誘導を図ることができる黄色を基本としたものである。

しかしながら、色彩に配慮した舗装を施した歩道等で、黄色いブロックを適用するとその対比効果が十分発揮できなくなる場合は、設置面との輝度比や明度差が確保できる黄色以外の色を選択できることとした。

一般的に視覚障害者誘導用ブロックは黄色と認知されており、黄色が良いとする意見も多いため、黄色を基本とするが、路面の色彩が類似している場合、周囲の路面との輝度比を2.0程度確保することにより視覚障害者誘導用ブロックが容易に識別できることが必要である。

輝度比については、晴天時において、1.5～2.5の組み合わせが、弱視者、暗眼者双方にとって問題ない範囲であるという既存研究（「視覚障害者誘導用舗装の現況に関する調査例」 岩崎聖司 坂口陸男 秋山哲男 舗装29－4 1994）等から輝度比2.0程度とした。

ただし、天候・明るさ・色の組み合わせ等によっては、認識しづらい場合があるため、色彩の決定にあたっては、沿道住民・利用者の意見が反映されるよう留意して決定するものとする。

（財）国土技術研究センター「道路の移動円滑化整備ガイドライン」より輝度比表

			誘導ブロック		
			標準色 黄色	クランチ色 B3(濃茶)	クランチ色 G4(黒)
ILブロック	クランチ	G1	1.2	3.03	2.49
	クランチ	G2	1.77	1.43	1.17
	クランチ	G3	2.05	1.24	1.01

（株）イワタが算出した舗装材と誘導ブロックの輝度比データ



黄色（標準）



濃茶



黒

○実際の施工色調イメージ



← G1 ：濃茶・黒の誘導ブロックに適合

← G2 ：黄色の誘導ブロックに適合

← G3 ：黄色の誘導ブロックに適合

○設計者案

① 管理棟の色調との調和性 ②弱視の方にとって視認しやすい輝度比 2.0 以上を踏まえ、下記のライトグレー(G1)の舗装材と黒系(G4)の誘導ブロックを採用



ライトグレー舗装



黒の誘導ブロック

×